

位置図



東中国山地緑の回廊



氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林

東中国山地緑の回廊について

近畿中国森林管理局では、平成 19 年 3 月に、野生動植物の生息・生育環境を守ることを目的に、民有林と国有林内の保護林等を連結する「東中国山地緑の回廊」を設定しました。

この緑の回廊は兵庫、鳥取、岡山の 3 県にまたがり、隣接する民有林とも連結しているのが特徴です。民有林と国有林を合わせた延長は約 42km で、面積は約 6,772ha です。

昔から自然の力ではぐくまれてきた森林はそのままの形で残したり、人が手入れしてきた森林についても動植物の生活環境に配慮した森林づくりを行い、人々との共生をめざしています。



群状間伐地
ハサリ国有林

モニタリング調査

緑の回廊内の環境の状況を把握するために、「国有林野における緑の回廊のモニタリング調査マニュアル」(平成 15 年 1 月)に準拠し、平成 19 年度からモニタリング調査を実施しています。

緑の回廊内に継続的に調査を行う「調査プロット」を設定し、各種の環境調査を行っています。平成 25 年度は、林床の植生調査や、ブナやミズナラの種子生産量調査、動物の生息調査などを行いました。

植生調査



三室国有林での調査状況



間伐地に成立した
下層植生

各調査プロットにおいて、森林の下層植生の状況を把握するために、草本層の植生調査(コドラート調査)を実施しました。

調査結果を経年的に蓄積しているデータと比較した結果、間伐などの森林施業を行ったプロットでは、草本層の優占度が増加していることが確認されました。

種子生産量調査

ブナクラス(ブナ林)に設置した調査プロット 2 箇所において、ブナやミズナラの種子生産量を把握するために、モニタリング調査対象の樹木にナイロンネット製の種子トラップを設置し、種子生産量を調査しました(8~10月)。調査の結果、平成 25 年度はブナをはじめとする堅果類は豊作と判断されました。



採集したブナの種子と殻斗



種子トラップの設置状況

野生動物調査

各調査プロットに赤外線センサーによる自動撮影カメラを設置し、緑の回廊に生息する動物の調査を行いました(7~10月)。平成 25 年度の調査では 9 科 10 種の哺乳類を撮影し、痕跡調査では糞や足跡など、5 科 5 種の哺乳類の生活痕跡を確認しました。自動撮影調査では、ニホンジカの撮影回数がこれまでの調査に比べて大幅に増加していました。



センサーカメラ



ノウサギの糞(痕跡)



ニホンジカ



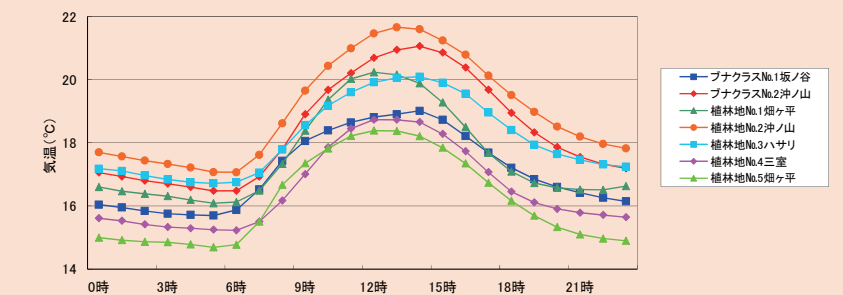
ノウサギ



ツキノワグマ

生息環境調査

各プロットに気温・湿度を自動的に計測するデータロガーを設置し、気温・湿度の連続測定を行いました(7~10月)。測定結果を整理し、調査プロットにおける気温・湿度の特性を把握しました(右図:調査プロットにおける気温の日周変化)。



周辺地域との連携

国有林に連結する民有林の代表者や関係行政機関、試験研究機関等と定期的に連絡調整会議を開催し、関係者が連携しながら各種取組を進めていくこととしています。

<東中国山地緑の回廊についてのお問い合わせは> 近畿中国森林管理局 (代表電話) 050-3160-6700